

問題【国語】

次の花言葉が表す花を下から選びましょう。

1. 神のお告げ
2. 淡泊
3. 夢は叶う

桜　タンポポ　青いバラ

豆知識 雑学コラム

花言葉、ストーリー満開

4月になり、新年度が始まりました。この時期は、新入生だけでなく、植物も新しい芽を出して初々しさを感じる頃ですよね。植物にはそれぞれに連想させるイメージがあり、そのイメージを言葉にしたものを花言葉といいます。「赤いバラの花言葉は情熱」などは有名ですよね。今日は花言葉について見ていきましょう。

そもそも、花言葉とはどこで始まったものなのでしょうか。17世紀のトルコで始まったなど諸説ありますが、1819年ごろにシャルロット・ド・ラトゥールが「花言葉」というタイトルの事典をまとめるなど19世紀のフランスで広く使われ始めたといわれています。

では、いったい花言葉はどうやって作られたものなのでしょうか。まず、その花の見た目や匂い、色といった特徴からつけられたものがあります。例えば、桜は潔く花が散っていく様子から「淡泊」という花言葉がつけられました。また、花言葉の中にはその花が人々とどう関わってきたかをもとにつけられたものもあります。例えば、タンポポは、昔からヨーロッパで、タンポポの綿を一つ一つ飛ばしながら「好き、嫌い、好き、嫌い…」と花占いをすることに使われてきました。タンポポで占いをする（＝神のお告げが聞ける）ということでタンポポには「神のお告げ」という花言葉がつけられました。

さて、花言葉はそれぞれの花に一つずつとは限りません。複数あることや、国や時代によって違うこともあります。青いバラはもともとどんなに品種改良しても作れない空想上の植物でした。そのため、青いバラには「不可能」という花言葉がつけられていました。空想上の植物にも花言葉がついているなんてロマンチックですよね。しかし、遺伝子組み換え技術の発達によって、2004年に青いバラを作り出すことに成功しました。こうして、「不可能」だった青いバラが誕生したことで、青いバラには「夢が叶う」という花言葉が加えられました。「不可能」と「夢が叶う」と真逆の意味の花言葉が与えられていて、不思議な感じがしますが、このストーリーを見ると納得ですね。

暖かい季節になり、近所を散策していると、たくさんのお花が目に入る季節になりました。目に入ったお花の花言葉からそのお花の意外なストーリーを知ってみるのも面白いのではないのでしょうか。

【解答】

① 青いバラ

② タンポポ

③ 桜